

八尾市水道事業ビジョン 概要 令和3(2021)年度～令和12(2030)年度

八尾市水道事業ビジョン策定の目的と位置づけ

策定の目的：本市では「八尾市水道ビジョン」の計画期間が終期を迎えることから、新たに「八尾市水道事業ビジョン」を策定し、安全で安心な水をいつでも安定的に供給し続けるために今後10年間の本市水道事業の方向性を示します。

位置づけ：八尾市水道事業ビジョンは、「八尾市第6次総合計画」を上位計画とし、八尾市水道事業の最も重要な基本計画として位置づけします。国の「新水道ビジョン」及び大阪府が策定した「大阪府水道整備基本構想(おおさか水道ビジョン)」と整合を図りながら、「安全」「強靱」「持続」の観点から基本目標を設定し、今後10年間で推進する実現方策を示します。

計画期間：令和3(2021)年度から令和12(2030)年度の10年間

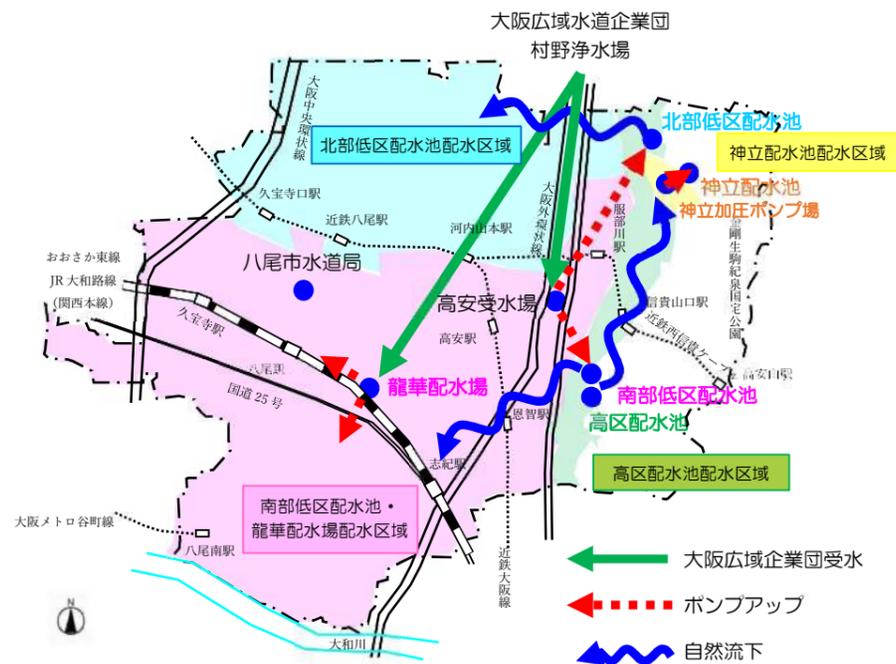
水道事業の現状評価・課題

水道事業のあゆみ

- 本市の水道事業は、市制施行以前の昭和14(1939)年に八尾町・龍華町で産声
- 市制施行を契機として市内一円に給水することを目標に置きつつ、水道施設のない地域への給水区域拡大、人口増加や都市の発展に伴う水需要の増加への対応、断水・濁水の解消などを主な目的として6次にわたる拡張事業を実施

水道事業の概要

- 水源は大阪広域水道企業団から高安受水場と龍華配水場で100%受水
- 高安受水場からは、ポンプで高安山中腹部にある北部低区配水池と南部低区配水池へ送り、自然流下方式でそれぞれ北部低区配水池配水区域と南部低区配水池・龍華配水場配水区域へ配水
- 南部低区配水池からは高区配水池へ送り、より標高の高い高区配水池配水区域へ配水
- さらに標高の高い神立配水池配水区域へは、この高区配水池配水区域から神立加圧ポンプ場を経由して神立配水池に送って配水



現状分析

【水道の安全性】	【水道の運営基盤】
<ul style="list-style-type: none"> ○水質及び水質の検査監視体制 <ul style="list-style-type: none"> ●水質：大阪広域水道企業団よりオゾン処理及び粒状活性炭処理を行った高度浄水処理水を受水 ●水質検査体制：市内の水道施設から水を送る箇所と末端の給水栓で、定期的水質基準項目の検査を実施 ●水質自動監視装置：市内7か所に水質自動監視装置を配置 ○貯水槽水道 <ul style="list-style-type: none"> 保健所に協力して管理状況の調査や改善指導を実施 ○給水装置工事 <ul style="list-style-type: none"> 平成30(2018)年の水道法改正により指定給水装置工事事業者の5年間更新制が導入 ○鉛製給水管 <ul style="list-style-type: none"> 以前に布設された給水管には鉛製給水管が使用されている場合があるため、漏水修繕や配水管更新工事に合わせてメーター部分までの計画的な更新に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○水需要の動向 <ul style="list-style-type: none"> 給水人口の減少と節水意識の向上及び節水機器の普及などにより減少傾向 ○財政状況 <ul style="list-style-type: none"> ●収入：収益的収入は給水量減少に伴い給水収益も減少基調、資本的収入は水道施設の耐震化等に伴う建設改良費の増加に併せて企業債の借入額が増加 ●支出：収益的支出は減少傾向を示していましたが近年は概ね一定、資本的支出は企業債残高の増加に伴い企業債償還金も増加 ●収支：平成30(2018)年度の受水単価値下げ時では当年度純利益は減少、資本的収支では年々不足額が増加 ●給水原価と供給単価：平成22(2010)年度を境に供給単価が給水原価を上回っており、健全な状態を維持、この差は徐々に縮小 ○広域連携の取り組み ○官民連携の状況 <ul style="list-style-type: none"> 業務の委託 ○職員数 <ul style="list-style-type: none"> 10年間で大幅に減少 ○お客さまサービス <ul style="list-style-type: none"> お客さまの利便性を高める取り組み ○広報・広聴 <ul style="list-style-type: none"> 様々な媒体による情報提供や水道モニター制度、出前講座などを実施
<h3>【水の安定供給について】</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○耐震化の状況(令和元(2019)年度末) <ul style="list-style-type: none"> ●管路耐震化率(口径75mm以上)：25.8% ●施設耐震化率：ポンプ所74.9% 配水池46.5% ○応急活動体制の整備、災害時における住民との協働 	

問題点及び課題

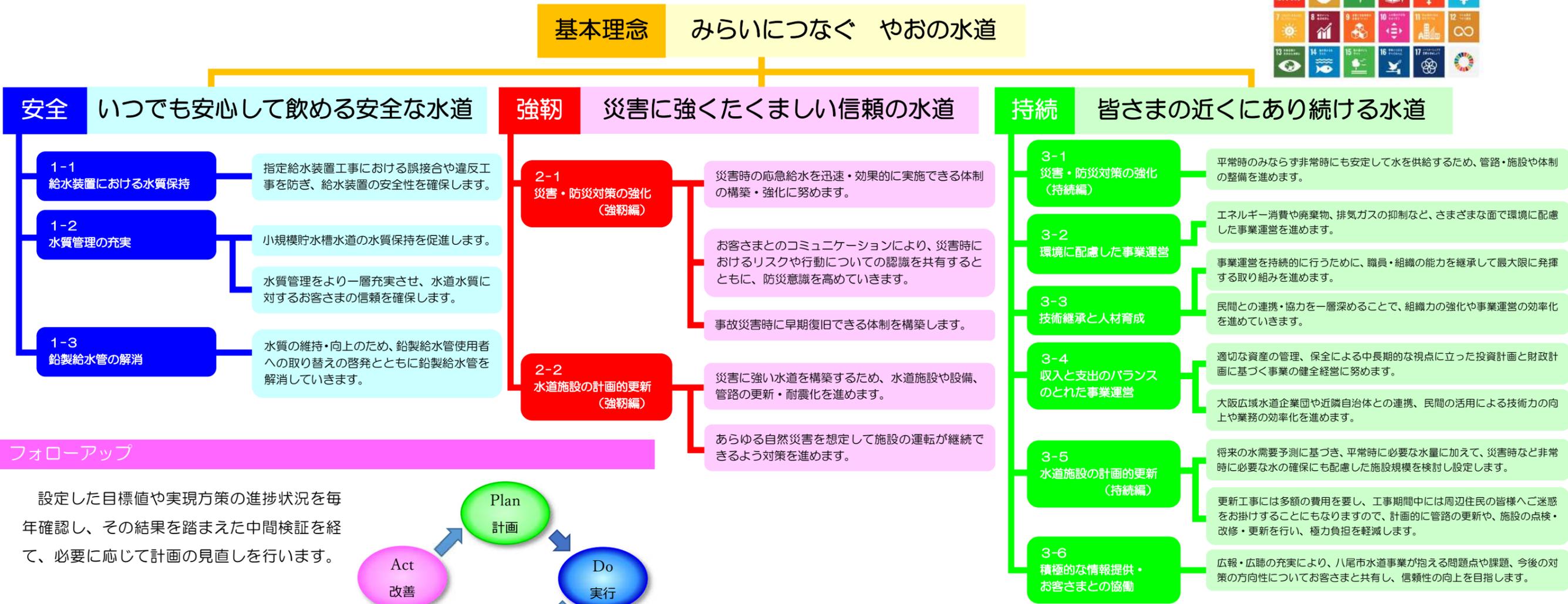
- 老朽化の進行
- 災害への対応
- 施設の最適化
- 計画的な投資(更新、耐震化等)のための備え

将来の事業環境

<p>1. 外部環境</p> <p>○人口：10年後の令和12（2030）年度には現状より2万人程度、24万人～25万人まで減少する予想</p> <p>○水需要：約8.0万m³の1日平均有収水量が10年後には7.5万m³程度まで減少する予測</p>	<p>○効率性</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水の使用量が減少し、供給施設の能力が過大となって効率性が低下 ●一方で、1年を通じて水の使用量が平均化しているため、今後施設整備を行う際に効率的な施設整備を行うことが可能 <p>○地震災害</p> <p>南海トラフ巨大地震や生駒断層帯地震の発生による水道施設への被害が想定</p>	<p>○洪水・土砂災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ●洪水：外水はん濫と内水はん濫による洪水を想定、寝屋川流域内の河川や大和川がはん濫する危険性 ●土砂災害：八尾市東部の山麓で、がけ崩れ、土石流、地すべりの危険性 <p>○水道法改正</p> <p>関係者の責務の明確化、広域連携の推進、適切な資産管理の推進、官民連携の推進、指定給水装置工事事業者制度の改善</p>	<p>2. 内部環境</p> <p>○施設の老朽化と更新需要：長期的には平均して19億円程度の投資が毎年必要と予測</p> <p>○資金の確保：水需要の減少に伴い収入も減少、今後もこの傾向は続く見通し</p> <p>○職員数：職員数は、令和元（2019）年度末87名まで減少、水道経験年数は低下</p>
---	--	---	--

八尾市の水道の理想像と目標設定及び実現方策

これからの水道事業は、水需要の減少に伴って料金収入が減少する一方で、水道施設の更新や耐震化対策など多額の投資が必要な見通しであり、それには多くの人員も必要になるなど、厳しい事業環境にあります。このような事業環境においても、八尾市水道事業の基盤強化を図り、安全で、強靱かつ持続可能な水道をめざして、下記のように基本理念を定め、目標及び施策を設定します。



フォローアップ

設定した目標値や実現方策の進捗状況を毎年確認し、その結果を踏まえた中間検証を経て、必要に応じて計画の見直しを行います。



R3年度 2021	R4年度 2022	R5年度 2023	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026	R9年度 2027	R10年度 2028	R11年度 2029	R12年度 2030
フォローアップ（進捗管理）				中間検証	フォローアップ（進捗管理）				最終評価 次期ビジョン策定